

大隅農村社会経済史料(VI) : 守屋舎人日帳(6) (天保2年5月～8月)

秀村, 選三

<https://doi.org/10.15017/4403530>

出版情報 : 経済学研究. 40 (3), pp.97-107, 1974-10-30. 九州大学経済学会
バージョン :
権利関係 :

大隅農村社会経済史料 (VI)

—守屋舎人日帳(6)(天保2年5月~8月)—

秀 村 選 三

解 題

今回は前回に続いて天保2年(1831)5月より8月までの分をおさめる。

此の間は、2月より4月に行われた宗門手札内改がほとんど完了し、5月2日には宗門手札帳面を糺合し、8日には帳面の清書、惣奉本払帳作成、証文との照合をなし、13日には宗門手札内改が「成就」し、札方掛郡見廻の矢神善左衛門が鹿児島へ出府して、藩庁に報告した。この後に9月から翌天保3年4月にかけて宗門手札改が実施されるが、これは次回以降に示されるであろう。一般的に云って、薩摩藩の宗門手札内改→宗門手札改の実態を知るには、此の時期の守屋舎人日帳はきわめて貴重な史料を提供していると思われる。なお6月に手札木売支配〔手札を一括作成・販売したと思われる〕重信浅右衛門の手先の者が札改奉行所の書状をもって高山郷の手札木販売の請負、指定のため高山に来ていたことが分る。

このほか、地方検者・締方横目・郡奉行・山奉行・蔵方目付・柙方検者等が郷内を廻勤・転宿して諸種の用にあたっており、舎人等郷の役職者はそのためにも意を注ぐことが多かった。薩摩藩の体制として郷土制度、所三役を中核とする郷村の支配体制と並んで、藩庁よりの役人の瀦繁な廻勤は郷村への支配の滲透を如実に感ぜしめるものである。当時の他藩に比べて薩摩藩の支配の強烈さ、巧妙さはかかる点でも窺えるように思われる。ことに地方検者、締方横目の役割は重要であったと思われるが、舎人日帳でも地方検者、締方横目は瀦繁に出てくるので、その研究のためには良い史料となるものと思われる。

また御趣法講や取除撲合についても数回出ており、盗犯、出火のあった場合の処置もうかがえる。

習俗的なものとしては日新院の御弔踊・御燈炉掛け(6月13日)や虫祈念等が見える。農業についての記事は断片的なものでしかない。もっともかかる日帳の記事は、短い一時期の考察では史料としての価値は半減してしまふ。さいわいに守屋舎人日帳は約半世紀の間連続して記録されているので、各断片的記事も総合して考察すると、他の史料では絶対に窺い知ることの出来ない事実を明らかにしてくれる。この日帳の刊行も前途程遠いが、努力を続けたいと思っている。

なお今回の分では、記述されていない日が数カ所あった。本稿では(何月何日欠)というふうにあらわしている。

* いままで守屋舎人日帳は次の如く鵜刻した。

文政10、11年『経済学研究』第32巻1号

文政12年 “ 第32巻3号

文政13年(天保元年) “ 第34巻1号

天保2年1月~4月 “ 第40巻1号

安政6年 “ 第35巻3、4号合併号。

本 文

卯五月朔日曇晴天

一、郡奉行大野清右衛門殿より一昨廿八日致承知候御届書、今早朝於御地頭仮屋惣役々致吟味、七ツ時分乍漸清書相済、直ニ郡山八左衛門・吉田藤兵衛兩人ニ而右清右衛門殿廻勤先鹿屋へ持越候様取計之事。

一、右吟味出役月番市来運右衛門殿・日高八郎太殿・^(田)大□善兵衛殿・河俣龍藏殿・拙者、吉郷士年寄山之内□^(休)之進殿・日高休左衛門殿・吉井宗太郎殿、組頭山下氏・津曲氏・永井氏、横目宇都宮休藏殿・日高新右衛門殿、其外略シ候事。

一、宗門手札内改方出張少故□^(休カ)ミ之事。

卯五月二日曇晴天

一、五ツ時分^ハ於御地頭飯屋、宗門手札帳面糺合等いたし候。拙者并書役郷八、平之□・半蔵・彦六ニ而候。尤市来氏病氣ニ而出勤無之候。節句前之儀^ト休ミ之筋ニ申談置候事。

一、当番組頭津曲次五殿出勤無之、尤取払津曲休次郎、ふれ兩人罷出候事。

一、分式^ノ四百拾四文拙者鹿府參上之節足米入付願御^(替カ)札入め料と^ハ取^リ相^ト相^ト置、今日取払津曲休次郎^ハ相受取候事。

一、黄爪^(瓜)なり□まり花さき候事。

(五月三日・四日欠)

卯五月五日雨曇天

一、於御地頭飯屋、先例之通惣郷士罷出□□有之候。月番郷士年寄日高八郎太殿・市来運右衛門殿・河俣龍蔵殿・拙者、組頭山下彦一殿・津曲次五殿・永井金之進殿、横目宇都宮休蔵殿・日高六^(太殿)□郎殿・日高新左衛門殿、地頭横目安庭権左衛門殿・山下彦太郎殿ニ而候。尤大田善兵衛殿事出勤有之、早退出ニ而候。且八ツ時分^ハ親類中祝儀廻いたし候事。

卯五月六日雨晴天

一、川上家取次吉原与三殿、柙方検者と^ハ被差越、於前田村木馬稽吉御指南有之候ニ付、今朝致見舞候事。

一、日高氏他出之由ニ而今日中月番受合候得共、何之御用^ニ承候事。

(五月七日欠)

卯五月八日曇雨天

一、四ツ過^ハ暮時分迄、於御地頭飯屋宗門手札帳面清書并惣挙本払帳取仕立方^ニいたし候。尤出役拙者并半蔵・平之進・彦六・郷八ニ而候。取払役求馬并触兩人罷出候事。

一、油直下リニ付、暮時分^ハ月番日高八郎太殿所^ニ致出会、四ツ時分罷歸候。横目津曲仲右衛門殿・日高六^(安庭)太郎殿・日高新左衛門殿、御地頭横目□□権左衛門殿・山下彦太郎殿ニ而候事。

卯五月九日雨天

一、四ツ時分^ハ暮時分迄、宗門御改帳清書其外惣人数挙本払^ニ仕立方いたし候。拙者并書役平之進・半蔵・彦六ニ而候。取払休次郎、触兩人之事。

卯五月十日曇雨天

一、宗門手札内改諸帳面糺合并詞書認方いたし候。市来氏并拙者、書役半蔵・郷八・平之進・彦六ニ而候。□□^(取カ)取^リ求馬、触武兵衛罷出候事。

卯 五月十一日晴雨天

一、五ツ過^ハ暮時分迄、証文当り并惣人数挙本払仕立方詞書本相認候。市来氏・拙者・彦六・平之進・半蔵・郷八、取払兩人、触兩人ニ而候事。

卯五月十二日曇雨天

一、五^(ツ)時^(分カ)□^(算力カ)証文当り、詞書認方其外本払本□□いたし候。市来氏・拙者、書役平之進・半蔵・彦六、取払兩人、触兩人ニ而候。其外当番組頭津曲次五殿、月番方書役甚次郎、組頭書役与宗太被罷出候。諸在寄も有之候。

卯五月十三日曇雨天

一、宗門手札内改七ツ時分迄致惣成就候。市来氏・拙者、書役平之進・半蔵・彦□^(六)・与宗太、取払休次郎、触清左衛門・金左衛門ニ而候。尤札方掛郡見廻矢神善左衛門明後十五日鹿府參上之筈候事。

一、宇都宮家伯父病氣ニ付、七ツ時分□□^(過龍カ)越、夜入候而彼所^ハ直ニ尾之下詰^ニ地方検者上原宗五郎殿^ニ致見舞候処、同役大田善兵衛殿・郡見廻郡山八左衛門并用水掛小牧恕右衛門・庄屋児玉直十郎參居、尅刻相咄、大田氏同道ニ而罷歸候事。

(五月十四日・十五日欠)

卯五月十六日晴天

一、去ル二日花さき候黄爪今日取始候事。

一、浦之五蔵外老人新札願書次書^ニ致印形候事。

卯五月十七日曇晴天

一、大田氏^ニ代り合、地方検者上原宗五郎殿^ニ相勤候事。

卯五月十八日雨晴天

一、八ツ過^ハ地方検者上原宗五郎殿^ニ差越候処ニ、郡見廻矢神善左衛門・用水掛小牧恕右衛門、其外庄屋・名主罷出候。拙者事^ト暮時分罷歸、宇都宮家^ニ立寄候。尤検者旅宿ニ而取寄、ところてん壺通焼耐有之候事。

卯五月十九日雨天

一、七ツ時分上原宗五郎殿旅宿に差越候処、郡見廻善左衛門参居候。名主吉助相勤候事。

卯五月廿日曇晴天

一、上原宗五郎殿今日前田村に御転宿之管候処ニ、九ツ時分移掛、野町伊平次所に立寄被成候段、案内之もの罷出申出候ニ付、直ニ野町に参り候処、右宗五郎殿并喜入休右衛門殿・吉井宗太郎殿・伊平次ニ而和歌の会ニ而候。尤締方横目川上東九郎殿并大田医泉杯被参候。且暮時分前田村上之原御旅宿に致同道候処、郡見廻善左衛門・庄屋杯参居候。尙尙^(相咄カ)罷帰候事。締方横目川上東九郎殿・中馬簾四郎殿兩人今日野町に御差入有之、東九郎殿に伊平次所ニ而掛御目、簾四郎殿に尙尙致見舞候事。

卯五月廿一日晴天

一、前田村上之原詰上原宗五郎殿に七ツ時分差越、暮時分罷帰候。郡見廻善左衛門其外名主罷出候事。

一、富山村植田相濟候届とノ名主罷出候事。

卯五月廿二日晴天

一、八ツ過上原宗五郎殿に差越候処、用水掛小牧惣右衛門参居候。尤郡見廻善左衛門に御茶差上管御座候ニ付、御検者衆御同道被成下候様申越候ニ付、御検者衆・拙者・惣右衛門三人同道ニ而七ツ半時分差越、四ツ時分彼所と相分、惣右衛門・拙者同道ニ而罷帰候事。

卯五月廿三日曇雨天

一、七ツ時分上原宗五郎殿に差越候処、善左衛門・惣右衛門・庄屋図師直八参候。暮時分皆々罷帰候事。

卯五月廿四日曇雨天

一、七ツ時分上原宗五郎殿に差越候処、郡見廻岩城勇八・用水掛惣右衛門参居候。尤宗五郎殿暮時分と吉井家にて歌会被差越候ニ付、致同道候。且勇八・惣右衛門事ハ中途迄同道之事。

卯五月廿五日晴天

一、前田村溝張取とノ早天に差越候。地方検者上原宗五郎殿・拙者・勇八・惣右衛門ニ而候。相仕舞候上、右検者衆旅宿に致同道、今晚五ツ時分罷帰候事。

卯五月廿六日曇晴天

一、新留村溝張り取とノ早天に致出勤候。尤出役昨日同断、且検者衆旅宿に暮時分致同道候。六ツ過時分勇八・惣右衛門同道ニ而罷帰候事。

卯五月廿七日雨晴天

一、科良之儀に御取締之事候故、及滞納如何之儀候間、郷士年寄・組頭・横目・郡見廻掛相立、毎月致催促、皆上納可為致候。左候而月々届可申出旨、久馬殿に被仰渡候段、地頭所并山奉行所より被仰渡候ニ付、滞納之もの共御地頭仮屋へ召寄致催促候処、当月と余日無御座候ニ付、延御訴詔申上被下度、来月ニ相成候ハ、可成丈上納仕可申段、申出候ニ付、右之成行に届申出置候而可然申談、掛中名前ニ而仕出方月番に頼置候。尤出役月番郷士年寄日高八郎太^(掛カ)殿・同役拙者・掛与頭永井金之進殿・掛横目日高^(六)太郎殿・掛郡見廻岩城勇八・行司・竹木見廻不残出会之事。

一、地方検者衆に出勤不相叶段^{(今晚)(申)}越置候事。

卯五月廿八日曇天

一、地方検者衆に昨日の市来^(氏出勤)に管候処、病氣ニ而拙者相勤居候。尤今日宮下村に転宿之管候ニ付、早朝検者衆に差越、三日と私相勤居候ニ付、御用有之節と何時ニ而も罷出可申段、申置候。若其内市来氏快氣無之候ハ、何方ニ而も出勤可仕候間、左様思召可被下段も申置候事。

卯五月廿九日曇雨天

一、地方検者衆に市来氏出勤有之候段、承候事。

卯六月朔日雨天

一、今朝日高八郎太殿に月番相受取候。尤書役山之内甚次郎・触桑畑金左衛門罷出候事。

卯六月二日雨天

一、御抱綱差休蔵男子与七持馬、野町長蔵方に相談之上壳渡、去ル四月牽越居候処、不束之儀有之、披露申出候由ニ而、当番郡見廻矢神善左衛門・前田村庄屋図師直八罷出申出候ニ付、為致熟談候様、町役方に書付を以申達候事。

一、分三百文

右に寺社方取除模合掛出分とノ高崇寺・福寿院両寺分、高崇寺に被差出、相受取置候処、当月に寺社方

掛与頭衆仕出之段、書役^レ承候ニ付、右員數掛与頭柏原伴之進殿方^レ觸谷口清左衛門を以差遣候事。

一、書役山之内甚次郎、觸谷口清左衛門罷出候。尤今日塩硝^(取)□□罷出候ニ付、引渡候段、金左衛門申出候事。

卯六月三日曇天

一、書役切通平之進、觸桑畑金左衛門罷出候事。

一、赤池橋繫相替候而可然段、横目日高新左衛門殿^レ被申出候。横目同役中同意之段、承置候事。

卯六月四日曇天

一、書役平之進、觸清左衛門罷出候。尤諸書付^ホ參候。

一、小普請長^(銀)請取^取壺通、与頭津曲次五殿^レ被差出候ニ付、書役平之進^レ相渡置候事。

一、山奉行方^レ被相勤候我々名代永井金之進殿、其外行司^并竹木見廻今日罷歸候段、被^レ□□山奉行衆些病氣ニ有之、波見船待之^レ□□事。

卯六月五日曇雨天

一、書役甚次郎、觸金左衛門罷出候。□^(尤カ)明六日於野町聊示^レ札方之筈ニ而、致^レ□□竹木見廻^レ□□候ニ付、致手当候事。

一、大始良詰御取下方山方下目□□□左衛門殿^レ御用有之、日高八郎太殿^レ被差越候事。

一、長西瓜成付花咲候。去ル朔日花咲候得共、朽捨り候。

卯六月六日曇雨天

一、書役甚次郎、觸清左衛門罷出候。尤取^レ弘^レ惣掛^(銀)出分之願、清左衛門を以申出候事。

一、金子式步波見浦^并波見村趣法講掛金と^レ拙者相受取候ニ付、甚次郎^レ渡置候事。

卯六月七日晴天

一、□□^(書役)平之進・金左衛門罷出候。尤御使有之候事。

一、金子二朱富山村趣法講掛金と^レ昨秋受取置候ニ付、平之進^レ相渡候事。

卯六月八日曇天

一、書役平之進、觸清左衛門罷出候。尤新留村之善左衛門^(年カ)□□号^レ欠落之段、郡方^レ御札方有之候ニ付、札方帳面^レ爲見合、平之進^レ假屋^レ遣候。

卯六月九日晴天

一、書役平之進・金左衛門罷出候。尤新留村西之門之藤左衛門^レ欠落披露書^レ爲見合^レ假屋^レ遣候事。

一、金子壹步宮下村趣法講掛金と^レ昨日^(請取)□□置候ニ付、平之進^レ相渡候事。

一、瓜^(瓜)成付花咲候。尤西瓜^(瓜)并瓜追々成付候事。

卯六月十日雨晴天

一、□□載差出、切支丹差出、諸寺請書取揃式日ニ而、八ツ過^レ御地頭^レ假屋^レ致出候。組頭永井金之進殿・横目宇都宮休藏殿・津曲仲右衛門殿・日高新左衛門殿・日高六太郎殿ニ而候。尤書役甚次郎・觸清左衛門・金左衛門罷出候事。

一、金子貳兩壹步始良^レ新留村趣法講掛金として請取置候ニ付、甚次郎^レ相渡候事。

卯六月十一日晴天

一、書役甚次郎・觸金左衛門罷出候事。

卯六月十二日晴天

一、書役甚次郎・平之進、觸清左衛門罷出候。尤御用人座^レ書付^レ壺通、其外諸座^レ書付^レ數通參候。

一、郡見廻郡山八左衛門事、鹿府^レ罷歸候届申出候事。

卯六月十三日晴天

一、日新^(院)御^(用)踊と^レ日新院^レ致出候。例年之通今晩^(燈火)御^(者)□□揚ニ而候。尤出役拙^(田)□□大^レ善兵衛殿・河俣龍藏殿・市來運右衛門殿・組頭^レ□□進・津曲次五殿・柏原休之進殿、横目日高六太□□・日高新左衛門殿・津曲仲右衛門殿、書役山之内甚次郎・平之進、觸清左衛門・□兵衛ニ而候事。

一、□□と^レ被參^(舞カ)□人□酒被下候。尤□^レ当□□之儀^レ致見□候而可□□□役々ニ而被申談、組頭永井金之進殿九ツ時分拙者宅へ被參候ニ付、銘酒八盃ニ火菓子相添差出、永井氏同道ニ而地藏院所^レ致見舞候事。

一、丑刻時分、野崎村之上原庵逢出火候段、庄屋・郡見廻^レ辰刻時分申出候ニ付、直ニ郷士年寄・与頭・横目・地頭横目・郡見廻^レ爲見分被差越候様取斗候。

卯六月十四日晴天

一、今般趣法講仕出方^并出火披露書調方と^レ書役甚次

郎・平之進罷出候得共、焼失分不相分、仕出不相調候。尤触清左衛門罷出候事。

一、手札木壳支配重信浅右衛門(小)林伊太郎・隈元伊右衛門差廻候由ニ而、今朝右兩人罷出、札改奉行所(伝カ)之□状差出候ニ付、掛同役市来氏(行カ)に申□候処、所中相糺申出之成□□以致返答可然申談、直ニ組頭方(行カ)に申越候。諸在之儀明日御地頭差寄之段、郡見廻承置候ニ付、其節可相糺申談候事。

一、新留村に虫祈念有之、八ツ過(小)郡見廻岩城勇八・横目津曲仲右衛門同道ニ而差越候。檢者上原宗五郎殿、郷十年寄市来氏、用水掛小牧恕右衛門出張有之候。書役甚次郎、触清左衛門事も跡(小)罷出候。尤拙者事、書役・触召列、暮時分罷帰候。津曲仲右衛門殿事同道之事。

卯六月十五日雨晴天

一、今朝書役甚次郎・平之進、触金左衛門罷出、趣法講掛出、出火披露書仕出候。飛脚川原伊左衛門ニ而候事。

一、山奉行新納宗右衛門殿、蔵方目付□川吉兵衛、山見廻大山四郎次殿、山奉行所書役有高甚蔵殿、内之浦(小)波見浦に御出有之、同役手当いたし候得共、今日(小)出勤不相調段、日高氏(小)承、外同役ニも出勤相調方無之ニ付、拙者差越申訳いたし、八ツ過罷帰候事。

一、波見浦(小)に御祭訴詔申上置候処、獵場御取揚之文字有之、御船手(頼カ)御札有之候ニ付、申談候而、成行申上候。拙者(頼カ)日高氏・河俣氏・市来氏ニ而候。大田氏事(頼カ)病氣ニ而被相□段承候。尤地頭仮屋出会之事。

一、手札請負相願もの老人も無之段、銘々支配頭(方カ)承届候ニ付、右之趣を以書付相認、小林伊太郎・隈元伊右衛門(御カ)に年行司を以遣候。尤昨□□取置□廻文入□(其外カ)動我々同役四人、横目衆四人、郡見廻岩城勇八、書役甚次郎、触金左衛門□□庄屋・在役罷出候事。

卯六月十六日雨晴天

一、書役平之進、触清左衛門罷出候事。

一、郡見廻郡山□左衛門(八)に当番相受取候届申出候事。

一、(浦カ)新□□材木出跡見分、出役与頭永井金之進殿・(津曲)次五殿、横目津曲仲右衛門殿、日高新左衛門殿、日□□□□、(高六太郎殿カ)郡見廻郡山八左衛門、用水掛小牧恕右衛門ニ而候事。

一、手札請負人手先之もの兩人、又々拙者宅に罷出、(再カ)冊吟味之願申出候事。

一、田布施郷士宮内袈裟次郎と名乗候盗人老人相捕、波見浦詰同役日高氏(目カ)被遣候ニ付、直ニ御地頭仮屋へ出張いたし、同役并当番組頭・横目方に申越、大田氏・永井氏・津曲仲右衛門殿・日高六太郎殿・日高新左衛門殿出会之上、為致格護、諸手当いたし置、今晚(目カ)引取、明□夜入候而列越候ニ付、書役平之進并触兩人に申越候而罷出候。且盗人賄方年行司方へ申渡置候事。

卯六月十七日雨天

一、早天御地頭仮屋へ致出会相糺候処、右之もの盗取候段申出候。野崎村之権右衛門品物外ニも於申良盗取候段申出、品物致所持居候。出役月番拙者并大田氏・河俣氏、古郷十年寄日高休左衛門殿・宇都宮蓮浄院殿・内之浦七郎次殿、与頭永井金之進殿・津曲次五殿、横目宇都宮休蔵殿・津曲仲右衛門殿、地頭横目山下彦太郎殿・安庭権左衛門殿、其他口事方切通平太・児玉次郎兵衛・日高半右衛門・郡山八左衛門ニ而候。書役甚次郎・平之進、触兩人(而候カ)ニ而候。

一、横目日高新右衛門・日高六太郎兩人早□(天カ)締方横目衆に被差越候処、申良池之□□ツ過ニ式人被參候得共、暮方ニ相成候ニ付、今日(天カ)糺方無之候。締方横目衆に見舞、皆々引取候事。

卯六月十八日雨晴天

一、田布施郷士宮内袈裟次郎事、昨夜逃去候段、四元孫兵衛申出候ニ付、即締方横目衆に申出、所役々致通達、尋方取斗候得共、不尋当候。出役昨日之内、蓮浄院・七郎次殿など出会無之候事。

一、番人四元孫兵衛・長浜新左衛門・町善助・長助ニ而候。

一、川締方横目衆上東九郎殿・中馬麗四郎殿(姫カ)に町正八事如何取計斗置候哉之旨被仰候ニ付、正八事(姫カ)と与七何様之儀も存不申段申出候、西目方之ものに手疵為

負、内々ニ而相濟置候段承居候。屹とて不申候共、
向後^之取締と所ニ而被致候而も^(可力)然段、被申候事。

卯六月十九日雨天

一、締方横目川上^東藤九郎殿并中馬麗四郎殿に今朝差
越候。尤九ツ過^(之)尾^下に用夫改^之差越^之締
方横目衆御旅宿迄差越候処、田布施郷土宮内袈^之次
郎に似寄候^之始良川^之徘徊いたし候段、相聞
得、手当有之、用夫^之儀ハ同役市来氏に頼越候
事。

一、右之袈裟次郎尋方^之差出置候^之罷帰
候。不尋当段申^之事。

一、野町正八一件ニ付、明廿^(通達力)役々差寄之致^之
候。

卯六月廿日雨晴天

一、早天締方横目川上^東藤九郎殿・中馬簾四郎殿申良之
様御転宿之筈ニ而差越候処、与頭永井金之進殿、横
目津曲仲右衛門殿被參候。尤荷物之儀と被遣、喜入
休右衛門殿御帰ニ付、暇乞として皆々同道ニ而昌林
寺に差越、福留迄見送、彼所より締方横目衆抔と相
別れ、九ツ時分罷帰候事。

一、八ツ時分御地頭飯屋へ致出候。野町正八一件
并不埒者共取締其外盜披露書本致吟味候。正八事ハ
親類・年行司と召列、御用申渡、禁酒申付、親類共
に請書申付候。尤出役拙者并大田氏・日高氏・市来
氏・河俣氏、郷土年寄内之浦氏・吉井宗太郎殿、与
頭永井氏・津曲氏・山下氏、横目津曲氏・日高六太
郎殿、地頭横目山下彦太郎殿・安庭氏、口事方日高
半右衛門殿、切通平太殿・柏原武平太・児玉次郎兵
衛殿・郡山八左衛門殿ニ而候事。

一、書役甚次郎・平之進、触清左衛門・金左衛門罷出
候事。

卯六月廿一日曇晴天

一、書役平之進・甚次郎、触金左衛門罷出候事。
一、山奉行方出勤難叶段、同役日高氏と承、組頭津曲
次五殿に代勤申付候事。

卯六月廿二日晴天

一、柝方檢者と被差越居候川上家取次吉原与三殿、
明廿三日御出立之筈ニ而、早天野崎村御旅宿に見舞

候。

一、書役平之進・甚次郎、触清左衛門罷出候事。

一、川原伊左衛門事、鹿府^(兼力)昨夜罷帰候段申出候。尤
拙者名^(兼力)趣法講式兩取ニ相当候由ニ而、酒飯料迄三
兩三步二朱之送状ニ而現金三兩三步朱差出候。且
内之浦先月掛金取替置候得共、返金無之候ニ付、掛
出置候金子御返被下度、若其儀相調不申候ハ、内
之浦と返金有之候様申上候得共、為何儀も不被仰付
段、伊左衛門と申出候事。

卯六月廿三日晴天

一、組頭山下彦一殿鹿府參上ニ付、鹿府仕出有之、書
役甚次郎、触金左衛門早天罷出候事。

一、書役平之進、触金左衛門罷出候。明日虫干之致通
達候。

一、今晚野町権兵衛所ニ而質屋改いたし候。尤拙者
并横目津曲氏・日高両家、書役平之進、触兩人ニ而
候事。

卯六月廿四日晴天

一、御地頭飯屋虫干と四ツ時分と致出候。拙者
并組頭永井氏・柏原氏、横目日高氏兩人、地頭横目
山下氏、書役兩人、触兩人、式才小頭四人ニ而候
事。

卯六月廿五日晴天

一、取除模合式口ニ而九ツ時分と^之飯屋に致出候。
候。^之吉本闖當りニ而候。其外委細之儀と取除
模合方日帳ニ記置候。尤出役拙者并大田氏^之
山之内休之進殿、与頭永井氏・津曲氏、横目津曲氏
・日高氏兩人、地頭横目安庭氏・山下氏ニ而候。且
取払守屋求馬・津曲休次郎、町支配人權右衛門・周
助ニ而候事。

一、書役平之進・甚次郎、触兩人罷出候。尤郡見廻矢
神善左衛門・郡山八左衛門罷出候事

一、金^(銀)御礼良一件ニ付、浦之紋太郎・小太郎其外浦
役人^之引列召呼、早々出府上納いたし候様申付候。
尤申付候届浦役連名ニ而御船手に宿次を以差上候
事。

卯六月廿六日晴天

一、書役平之進、触金左衛門事と二木惣右衛門母不幸

ニ付差支、甚次郎・清左衛門罷出候。尤異国船改として浦役峯崎平八・弁指小右衛門罷出候。且横目守都宮休蔵殿連名ニ而帳面異国船掛に差上候事。

一、分式^(船)ノ郷士年寄番四郎^(船)ノ昨日取除模合分借用之願申出、郡見廻郡山氏・矢神氏名前ニ而かり入、渡方之儀^ト書役平之進に被願置候処、今晚被相渡候事。

一、昨日取除模合ニ付利分式百八文吉川五左衛門^(不カ)差出候ニ付、与頭当番永井氏取付被置、来月模合座之節、被差出候而可然筋、昨日出役中申談候事。

卯六月廿七日晴天

一、書役甚次郎、触清左衛門罷出候。尤波見村之早右衛門召仕新平御恩赦被仰付候段、郡方^ト被仰渡、御用申渡管候処、折節鹿府^ト歸候由ニ而、不図罷出候ニ付、右之趣申渡、早々出立申付候。

一、不埒もの共為取締、今日十文字馬場より相始、砂持申付候。郡見廻以上役々出会之事。

卯六月廿八日晴天

一、書役甚次郎、触清左衛門罷出候事。

一、家督座問拙者宅へ罷出候。今日御地頭飯屋にも罷出候。

卯六月廿九日晴天

一、暮時分^ト清水地藏院所に宮洗見分^トノ差越候。拙者并横目日高新左衛門ニ而候。尤書役甚次郎、触金左衛門・清左衛門召列候事。

卯六月晦日晴天

一、書役甚次郎、触金左衛門罷出候。尤月首尾本諸座に申上候事。

一、^(竹)木見廻遠矢直八事、大始良詰山方^(竹)六左衛門殿に差越候処、牛立方催促之由承候。

一、加世田大浦村之新平除証文^(竹)老枚、添状相添、生子取除差出、高直願書本新平に為持、鹿府詰山下彦一殿・成合^(竹)之助宛ニ而相認、昨日山之内甚次郎を以吉川孫太郎方に遺置候事。

卯七月朔日晴天

一、早天書役平之進召呼、大田氏に月番次渡候。尤札方覺書老通入市来氏宛之書付老通、右平之進に相渡候事。

卯七月二日晴天

一、野崎村詰地方検者上原宗五郎殿に今日^ト出勤之管候処、病氣ニ而郡見廻方に頼越、荷物迄差遣置候事。

(七月三日、四日欠)

卯七月五日晴天

一、些病気快相成候ハ、致出勤呉候様、地方検者方詰郡見廻郡山八左衛門^ト申越候得共、致出勤躰無之候ニ付、外方被成手当可給旨、別紙相添月番方に頼越候事。

(七月六日欠)

卯七月七日晴天

一、昨夜風早純良所に盗人と相見得候もの参、相捕引出候ニ付、早々御地頭飯屋に致出候様、月番同役方^ト日出時分通違有之、差寄札方いたし候処、盗之考ニ而忍入候段、申出候ニ付、横目兩人締方横目衆に被差越、帰宅之上、通^(竹)有之次第差寄可然申談、四ツ時分引取候。尤書役月番大田善兵衛殿・河俣龍蔵殿・拙者・与頭永井氏・柏原氏・横目日高新左衛門殿・日高六太郎殿・宇都宮休蔵殿・津曲仲右衛門殿、地頭横目兩人ニ而候事。

一、右盗人宮之城虎井村橋之門名子仁助と申出候事。

卯七月八日晴雨天

一、締方横目久留助右衛門殿・中馬簾四郎殿、野町利右衛門所・仁平次所に四ツ過差入有之。致見舞候処、九ツ時分御地頭飯屋に被差越、所役々立会、右之仁助相糺候処、昨日申出之通相違無之候ニ付、明日宿次を以御用人座に差上筋申談置、七ツ時分過締方横目衆杯^ト柏原元宿に被引取候。尤月番并拙者・横目四人野町宿迄差越候事。

一、右糺方出役之月番其外、昨日^(断カ)同^(竹)、与頭柏原伴之進殿老人欠座ニ而候事。

卯七月九日曇晴天

一、宮之城虎井村橋之口門名子仁助事、披露書相添、宿次を以差上候。月番大田氏・河俣氏・拙者、郡見廻岩城勇八連名ニ而御用人座并地頭所に致披露候。

(七月十日欠)

卯七月十一日雨晴天

一、^(瓜)爪大なるハ初而落候。三十日斗ニ落候なり。かね
と二十四五日目ハ落候事。

卯七月十二日晴天

一、尾之下詰地方検者上原宗五郎殿に市来氏代合とし
て八ツ過ハ差越相勤候。六ツ過罷帰候。尤郡見廻矢
神善左衛門殿勤居候事。

一、宮下村ハ草取相仕舞候届申出候事。

卯七月十三日晴天

一、高須御蔵下代留主ニ而、夏免証文蔵付之在ニ不相
濟段、郡見廻矢神善左衛門^(ハ宮下カ)□□□□村庄屋召列罷出申
出候ニ付、右兩人召列、四ツ過地方検者衆に差越、
致^(相談候カ)□□□□処、彼方宛ニ而書付を以申出候様^(被カ)□□仰候
故、郡見廻^(連)□□名□□而、成行之書付相懇、差出候処、
別紙相添郡方に宿次時付を以被差上候。尤右留之儀
ハ郡見廻矢神善左衛門致格護^(候)□□。九ツ過罷帰候
事。

一、暮時分地方検者衆に差越候処、郡見廻郡山八左衛
門參居候。左候而矢神善左衛門・用水掛小牧恕右衛
門、前田村庄屋凶師直八參候。名主太郎右衛門相勤
候。且明日より明後日迄頼置、五ツ時分罷帰候事。

一、^(瓜)西瓜初而取候。花咲候ハ三十六七日ニ相当り、能
熟候。尤屋敷之西瓜^(瓜)と早ク致盛長候得共、百十日目
斗盛長不宜候得と、百三十日ニ^(瓜)茂相掛、初而取候様
ニ相成候ニ付、大根杯蒔入候見当之所に西瓜蒔入候
節ハ二月四日ハ廿四五日之間に不蒔入候而ハ大根蒔
入方ニ差支候故為心得記置候事。

(七月十四日欠)

卯七月十五日曇晴天

一、御燈炉掛とハ今晚日新院に差越候。月番大田氏・
河侯氏、組頭永井氏・山下氏・津曲氏ニ而候事。

卯七月十六日晴天

一、地方検者衆に四ツ時分ハ差越候処、前田村川^(崎カ)□
之六兵衛所に転宿ニ而、魚取いたし少々取得候。今晚
四ツ時分罷帰候。尤明日と検者衆□□家ニ被差越由
ニ而、不及出勤段承候。且出役拙者并郡見廻矢神善
左衛門・岩城勇八・用水掛小牧恕右衛門ニ而候。庄

屋・在役罷出候。

一、野崎村草取致惣仕舞候段、昨日申出候ニ付、今日
検者上原宗五郎殿に申出候事。

卯七月十七日晴天

一、^(ママ)止滞納良致催促、皆納不相調候ハ、^(銀)科良掛之
内ハ来ル廿日限罷出、其段可申出旨、於山奉行所致
承知^(候カ)□□段、組頭山下彦一殿ハ先達而被申出、今日於
御地頭仮屋致催促候得共、皆上納相調丈ニ而ハ無
之、明日竹木見廻^(矢)直八出府之筋に相決候。出役^(銀)
科良掛拙者、山方掛日高八郎太殿・河侯龍蔵殿、山
方掛組頭山下彦一殿科良掛永井金之進^(銀)□□□□掛横目
宇都宮休蔵殿、行司遠矢半左衛門、竹木見廻^(連)□□矢直
八、科良掛郡見廻岩城勇八ニ而候事。

一、昨夜野町儀八娘拾壹歳之童女に富礼売子いたし候
松之^(助)□□と申ものハ富隠差道具ニ而為負手疵候段申
出、及札方候処、本田播摩守家来橋口松之助と申出
ニ而、為負手疵候儀、無調法至極奉存候段申出候。
明早天横目之内、締方横目衆に被差越筋相決候。尤
出役右之人數外ニ古郷土年寄内之浦七郎次殿、地頭
横目安庭権左衛門殿・山下彦太郎殿、口事方式三人
出役之事。

卯七月十八日晴天

一、横目宇都宮休蔵殿、締方横目衆ハ八ツ過被罷帰次
第承候処、内ニ而相濟候様取計候儀と不相叶哉之
旨、被申事候ニ付、今一度致吟味可申段申置罷帰候
段被申候ニ付、致吟味候処、屹と相糺成行承届候
上、内濟いたし候儀難叶候ニ付、又ハ締方横目衆
に被差越□□之上、差寄之通達有之候而可然筋申談
候。出役月番大田氏・日高氏・河侯氏・市来氏、与
頭山下氏、横目津曲仲右衛門殿・日高□□郎殿・宇
都宮休^(藏殿カ)□□地頭横目山下彦太郎殿・安庭氏、^(口)□事方
切通平太・日高半右衛門・郡山八左衛門ニ而候事。

卯七月十九日晴天

一、早天地方検者衆に見舞、今日締方横目差入有之候
ハ、晩方罷出不申段申置、罷帰候事。
一、締方横目久留助右衛門殿・中馬簾四郎殿、野町伝
左衛門所に八ツ過差入有之、致見舞候上、御地頭仮

屋に出席有之、本田播摩守家来橋口松之助及礼方候
 処、投突ニ突候儀不調法至極奉存候段申出候ニ付、
 明後廿一日宿次ニ而差上筋申談候。尤締方横目衆事
 之四ツ過野町に被差越、九ツ時分串良之様御歸ニ而
 候。且出役月番郷士年寄大田氏・日高氏・拙者、与
 頭山下氏・津曲氏・永井氏、横目津曲氏・宇都宮氏
 ・日高六太郎殿、地頭横目安庭権左衛門殿・山下彦
 太郎殿ニ而候事。

卯七月廿日晴天

一、地方検者上原宗五郎殿、今日五ツ過宮下村中嶋之
 孝右衛門所に御転宿有之、拙者并勇八差越^(候)事。

一、諸在罷出致首尾合候。尤郡見廻郡山八左衛門、用
 水掛小牧惣右衛門、新留村・前田村・宮下村庄屋罷
 出候。其外之在々名主罷^(出)候事。

一、本田播摩守家来橋口松之助被露書物式通認、月番
^(方カ)□に被遣候ニ付、致印形候。月番大田氏并同役中不
 残、郡^(見廻)□郡山八左衛門連名ニ而候事。

一、今日迄不残^(瓜)□□□、尤落初に十六日ニ相成候
 事。

(七月廿一日欠)

卯七月^(廿)□二日晴天

一、地方検者衆五ツ□出立有之候ニ付、四ツ時分郡見
 廻岩城勇八同道ニ而宮下村引取、帰掛月番郷士年寄
 大田善兵衛殿に届申出候事。

(七月廿三日欠)

卯七月廿四日晴天

一、高帳・小普請帳其外願書に致印形候事。

卯七月廿五日雨晴天

一、西^(瓜)都而取候。初而取候日に十三日ニ相^(成)候。尤
 蒔入候日に百三十日斗ニ相成候。且大根蒔ニ支候ニ
 付、^(少カ)□と早ク取候故、間ニそ不熟有之候。

(七月廿六日より八月四日まで欠)

卯八月五日曇晴天

一、青木^(半)□助野稲作いたし置候処、沓畦半程去ル三日
 夜刈取候段申出候由ニ而、早々御地頭仮屋に致出会
 候様月番郷士年寄大田善兵衛殿に通達有之、差寄候
 処、不審之簾も無之候ニ付、走込改にいたす外無之

候得共、夜中難致候ニ付、明日早天致出会、走込本
 可致申談候。尤月番病氣之由ニ而、拙者に被頼越
 候。出役拙者并日高氏、与頭永井氏、横目日高六太
 郎殿、地頭横目安庭権左衛門殿、口事伊東氏・切通
 氏・児玉氏・柏原氏・郡山氏ニ而候事。

卯八月六日晴天

一、右一件ニ付、早天仮屋へ差寄、与頭山下氏・永井
 氏、横目津曲氏、地頭横目安庭氏、口事方児玉氏・
 伊東氏・^(柏)□原氏・切通氏、用水掛郡見廻加役小牧氏
 四手ニ手分有之、銘々拾五人^(相カ)□召列、走込改并近
 方之者共礼方本有之候上、右^(役カ)□ニ而場所見分本有
 之候処、不審之簾も不相見、右野稻之儀、残稻見分
 有之候処、草之中に間ばらニ出稲有之躰ニ而、吟味
 之折柄、取下願内々^(銀)与頭山下彦一殿に申出候而、御
 地頭仮屋に七ツ時分右役に被參、彦一殿に被申出候
 ニ付、出役中吟味候処、半助右様之存念ニ付而て下
 ヶ置候而可然申談、半助召出、直ニ承届候上、相下
 候。右出役外拙者并郡山氏ニ而候。

一、山方聊止滞納長一件ニ付、御地頭仮屋に差寄、吟
 味之成行滞納之者共に申渡、来ル十日限届申出候様
 申付候。出役拙者并与頭山下氏・永井氏、行司遠矢
 半左衛門・市^(銀)□進・遠矢直八・日高休八ニ而候
 事。

卯八月七日晴天

一、唐船改竹下覚左衛門殿・異国船掛書役川上林兵衛
 殿、内之浦に差入、異国方御見分之筋ニ柏原に先状
 相達、横目津^(曲)□仲右衛門殿同道ニ而差越、相待居候
 処、明日差入之段、又々川上林兵衛殿に被申越候。
 尤行司遠矢半左衛門・竹木見廻遠矢直八外ニ家村利
 □□、□□衛門今日參候事。

卯八月八日雨晴天

一、竹下覚左衛門殿・川上林兵衛殿・山見廻大山四郎
 次殿被差入、中嶋山□□建方有之、新兵衛所に新右
 衛門所に被立寄、日入前柏原之様被差越□□出役
 昨日□□通ニ而候事。

一、串良唐仁町之者逢盜候品之内三品、石ヶ崎之大山
 喜右衛門買入居、先達而に締方横目被相糺候処、今

日より所役と立会候様被^(被)仰、日高氏并組頭山下氏、横目日高新左衛門殿・日^(高)六太郎殿、地頭横目安庭権左衛門殿被^(被)参、締方横目衆事ハ久留助右衛門殿・町田喜八郎殿・石川正兵衛殿ニ而、糺方有之候処、下之門中宿福見勘左衛門御用ニ不^(不)参、行衛不相知候ニ付、異国方相濟候ハ、致出会候様、今晚五ツ時分同役日高^(高)越、致出会候得共、不尋出候事。

卯八月九日晴天

一、宮之城屋敷足輕新留村居住大山喜右衛門事、盗品買取候儀相違無之候得共、締方横目衆^(不)差而^(不)審無^(審)之^(者)共稠敷被^(被)相責候ニ付、不^(不)審之^(上稱カ)簾相見得候^(者)敷^(津)責^(者)と被^(被)成而^(者)と如何御座候哉之旨、日高氏・拙^(者)・^(津)曲氏申談申出候処、甚叱有之候故、其儘召置候。尤喜^(右)衛門并右之妻・勘左衛門妻・勘左衛門父不^(不)殘今晚^(右)差出候。明日披露之筈ニ而引取之事。

一、右出役締方横目町田喜八郎殿・久留助右衛門殿・石川正兵衛殿・矢野八郎殿、郷士年寄日高氏・拙者、組頭山下氏、横目津曲氏・日高六太郎殿、地頭横目安庭権左衛門殿ニ而候。横目日高新左衛門殿事と今日被^(被)帰候事。

卯八月十日雨晴天

一、喜右衛門・同^{○屋敷}足輕福見勘右衛門今朝列越候ニ付、締方検者衆^(者)の申出候処、盗之不^(不)審被^(被)相掛糺方有之候得共、致盜候筋不相見候故、今晚暇被^(被)差出、明日披露之筈候ニ付、夜半過致暇、麓^(麓)に罷^(罷)帰候。日高氏・山下氏・安庭氏同道ニ而候。横目兩人波見泊ニ而候。尤出役昨日同断ニ而候事。

卯八月十一日雨晴天

一、日高八郎太殿・拙者兩人、月番市来氏^(者)に致出会、喜右衛門一件披露書相認、清書之儀と頼置候事。

卯八月十二日

一、昨日之披露書致清書、月番^(者)被^(被)差越候ニ付、致印形候。日高氏連名ニ而取次宛之事。

(八月十三日欠)

卯八月十四日雨晴天

一、八ツ時分御地頭飯屋^(銀)に致出会、聊示^(銀)滞納長一件致

吟味、滞納之者共^(銀)に申渡候。尤与頭永井金之進殿出府之筋申談候。且本役山方掛郷士年寄日高氏、科長掛拙者并組頭永井氏、郡見廻岩城氏、行司遠矢半左衛門・永井休右衛門、竹木見廻遠矢直八・日高休八ニ而候。夜入候而引取候事。

卯八月十五日曇天

一、前田^(銀)詰地方検者伊東権平殿^(銀)に七ツ時分致見^(銀)候^(銀)処、日高氏・矢神氏相付被^(被)居候。拙者事と未日之不入内暇いたし罷^(罷)帰候事。

(八月十六日欠)

卯八月十七日曇天

一、嶋津頼母殿家来長谷場太七郎事、去ル十三日夜内之浦之五三井^(者)に^(者)負手疵逃去候由ニ而、尋方頼来、猶又詰居締方横目衆^(者)も尋方申来居候処、今日山口休五郎所^(方)に^(衆)参候段、八ツ時分過月番方^(者)に^(者)申出、直ニ拾五人^(方)に^(衆)其外手当有之、役^(者)と^(者)召列差越相捕致格護置、締^(方)横目^(衆)に^(者)直飛脚^(者)に^(者)出候。尤内之浦^(方)にも刻付を以^(者)申越候。且出役月番市来氏・拙者、与頭津曲氏・永井氏、横目日高兩人^(津)・^(津)曲氏、地頭横目安庭氏ニ而候。郡見廻郡山八左衛門ニ而候。

卯八月十八日曇雨天

一、長^(ケカ)原道普請と^(ケカ)差越候。新留村・野町^(ケカ)に^(ケカ)夫相立候。出^(役)拙者并横目日高六太郎殿、地頭横目安庭権左衛門殿、用水掛郡見廻加役小牧恕右^(者)に^(者)門罷^(者)出候事。名主四郎八罷^(者)出候事。

一、地方検者大^(河平)源太左衛門殿御差入ニ而、右帰掛小牧恕右衛門同^(河平)茂助所^(河平)に^(河平)致見舞候事。

一、高掛式^(銀)奴良延訴詔書并後田村島見掛地願次、山方^(銀)滞納^(銀)良方印紙其外^(銀)に^(銀)市来氏致印形候事。

卯八月十九日曇雨天

一、御^(銀)に^(銀)波見村境迄道普請と^(銀)野崎村より夫^(銀)候ニ付差越候。拙者并横目昨日同断、地頭横目山下彦太郎殿、郡見廻郡山八左衛門ニ而候。尤山下氏事^(早ク)と^(早ク)引取有之候事。

(八月廿日より廿四日迄欠)

卯八月廿五日晴天

一、締方横目町田喜八郎殿・久留助右衛門殿・石川正

兵衛殿・宮里仁左衛門殿，野町正八所に被差越，鉄
炮切封有之候。拙者并横目津曲仲右衛門殿，野廻野
元八次郎・柿元万右衛門・日高曾之進・柏原善右衛
門致出候。且七ツ時分串良横目大保長之丞殿被
参，暮時分被罷帰候事。

卯八月廿六日晴天

一，月番市来氏同道ニ而野町詰締方横目衆に五ツ時分
致見舞候処，無間茂串良之様御出立有之候事。

(八月廿七日，廿八日欠)

卯八月廿九日曇雨天

一，四ツ時分出立，波見浦に差越，小右衛門仕入之□

□□并出来之搦粉致見分候得共，証文本認方□□□
右小右衛門所に泊候。尤出役川口詰山方下目付鬼塚
源右衛門殿并拙者，行司遠矢半左衛門・永井休右衛
門，竹木見廻遠矢直八・日高休八ニ而候事。

卯八月晦日雨晴天

一，右証文本相仕舞，四ツ時分出立罷帰候。行司・竹
木見廻致同道候。尤遠矢直八事ト早ク罷帰候事。

一，昨日波見浦に^(砂)着掛紗糖取締横目有川休八殿に致見
廻候。

(未完)